

研修医のためのリスクマネジメントの鉄則 日常臨床でトラブルをどう防ぐのか？

田中まゆみ 著

＜書評者＞ 日野原重明（聖路加国際病院理事長）

このたび医学書院から、田中まゆみ先生（大阪市にある北野病院は京都大学医学部の関連病院で、その病院の総合内科部長をなさっている）の『研修医のためのリスクマネジメントの鉄則——日常臨床でトラブルをどう防ぐのか？』という A5 判 168 ページの本が出版された。

田中まゆみ医師は、京都大学医学部卒業後、京大大学院を出て、ボストンのマサチューセッツ総合病院で研修を受け、さらにボストン大学公衆衛生大学院を修了し、帰国後、聖路加国際病院の総合臨床外来を経て、現在は北野病院総合内科部長として勤務している。

田中医師は、私が理事長をして

いる聖路加国際病院で 2012 年までの 6 年間一般内科の副医長を勤め、研修医の教育に携わってこられた。

その後北野病院に移り、研修医の教育指導を通して、研修医が臨床の前線で患者を診療している中で、どうすればそのトラブルを防ぐことができるかを、いくつかの鉄則を示して警告される。その生の声がこの本である。

本書は、研修医が、日本の法律体系を熟知しないことから起こる医療訴訟に巻き込まれないように警告したいという。内容は、次の 5 章に分類される。第 1 章は、「医師に求められるリスクマネジメント」。第 2 章は、「リスクマネジメ

ントの基本としてのインフォームド・コンセントの手順」。第 3 章は、「リスクマネジメントの ABCD（A：Anticipate—予見する，B：Behave—態度を慎む，C：Communicate—よく話し合う，D：Document—記録する）」。

第 4 章は、「検証—『リスクマネジメントの ABCD』でケースをみる」。第 5 章は、「ケースで理解するリスクマネジメントの鉄則」（これには 12 例の症例が紹介されている）。

著者は、本書によって新臨床医研修制度の根幹である「医師としての人格の涵養に役立たせたい」という思いを後記に書いておられるが、私は本書を研修のための必読の書として推薦したい。

●A5 頁 168 2012 年
定価 2,625 円
(本体 2,500 円+税 5%)
[ISBN978-4-260-00439-8]
医学書院 刊